



▲市特産のサツマイモを生地にたっぷり練り込んだ芋まんじゅう



▲和気あいあいと手際よく作業をこなす女性たち



▲イベントでは揚げたてさつまいもスティックのほか香取市の特産品をPR (写真は落花生のつかみ取り)

岩手県へ特産品をお届け

心を込めた ふっくらまんじゅう

震災で大きな被害のあった岩手県山田町と継続的に交流をしていたやまだ元気隊と商工会女性部。岩手県三陸海岸の復興イベント「宮古・下閉伊冬の産直まつり」(1月25日開催)に参加するため、1月23日に1,000個の芋まんじゅうを山田公民館で作りました。

岩手県津波被災地への特産品や芋まんじゅうのお届けは、「手作りのものや香取市で採れた特産品を味わっていただき、元気になってもらいたい」という思いから始まり、今回で4回目になります。

調理室は、せいろからの蒸気とにぎやかに作業をする女性たちの熱気に満ちあふれていました。

イベントでは、三陸の海産物などが並ぶなか、芋まんじゅう、香取市産のさつまいも・ごぼうの販売や配布のほか、甘酒を振る舞いました。三陸の人々とのふれあいのなかで震災により大きな被害を受けた両地域の交流は今後も続きます。

まちかど通信

楽しくホットなまちの話題をご紹介します

「小見川まち自慢」講演会

「ハレ」と「ケ」を見つめよう



▲食の「ケ」は地域性がよく出るという話に、納得

講師に全国各地の絵地図を手掛ける絵地図師・散歩屋の高橋美江さんを招き「目からウロコ!小見川まち自慢」と題した講演会が1月24日、いぶき館で開催されました。

講義は非日常を表す「ハレ」(「晴れの舞台」や「晴れ着」など特別な場面で使われる)と、日常を表す「ケ」という言葉を使って展開され、受講者に「頭を柔軟にし、まちを歩くと興味を引く「ケ」がゴロゴロ転がっている。それを検証していくと、いろいろな発見があり、おもしろい」と小見川のまちを楽しむコツを伝授しました。

赤ちゃんを楽しむ絵本とわらべうたの会

語りかけは心の栄養

佐原中央図書館による「赤ちゃんを楽しむ絵本とわらべうたの会」が1月22日に、佐原中央公民館で行われました。

お父さんお母さんからの語りかけは、赤ちゃんの心の栄養になるといいます。今回は、読み継がれてきた絵本3作品と、親しみのあるわらべうた7曲を赤ちゃんに聞かせました。参加したお母さんは「昔からあるわらべうたに触れられるよい機会と思い参加しました。ほかのお母さんやお子さんと交流ができてよかった」と話してくれました。



▲楽しい絵本に赤ちゃんたちは夢中に

ちゃんとまっすぐ飛ぶかな？

ナイフを使わず安全に作れる竹トンボ作り教室が、1月25日に山田児童館で開催されました。

この竹トンボは、竹の羽を紙やすりで削って形を整え、火であぶりながら羽にひねりを加えたあと竹串に刺して完成です。均等な重さになるように正確に削ることと、しっかりひねって羽に角度をつけることがよく飛ぶ竹トンボを作る秘訣。仕上げに思い思いの模様や文字を書き入れたオリジナル竹トンボを、子どもたちは楽しそうに何回も飛ばしていました。



▲力を入れ過ぎないのが飛ばすコツ

のように正確に削ることと、しっかりひねって羽に角度をつけることがよく飛ぶ竹トンボを作る秘訣。仕上げに思い思いの模様や文字を書き入れたオリジナル竹トンボを、子どもたちは楽しそうに何回も飛ばしていました。

しょうごんじ 庄厳寺で大般若経六百巻の転読

安寧願い厄払い

1月28日は不動明王の初不動の日。庄厳寺では約30年ぶりとなる大般若経六百巻の転読が行われました。經典は僧侶や檀徒総代12人（1人あたり50巻）が囲んだ状態で、一斉に読まれました。また、転読の最中には護摩法要も同時に行われ、参加者は今年一年の家内安全などの願掛けをしました。

住職の根本量識さんによると、經典各巻の表紙裏には寄付者名が書かれており、寛政9年当時の新宿地区の世帯をおおよそ伺い知ることができそうです。



▲經典を一斉にめくり、全体を読んだこととする転読

香取市民文化祭栗源会場（さつき館）

栗源の祭典、ふたたび

栗源地区で、待望の栗源市民センター「さつき館」の竣工記念を兼ね、1月31日、2月1日に市民文化祭が開催されました。

新しい会場では、書道、絵画、陶芸などの作品展示のほか、ホールでは舞踊、カラオケ、ダンスなどの発表も行われました。特に会場を沸かせたのは栗源ではおなじみの齋木貞夫さんの安来節。滑稽なドジョウすくい「何度見ても笑ってしまう」と会場を笑いの渦に巻き込みました。ホール内は立ち見客もいるほどで大盛況のうちに幕を閉じました。



▲熟練の安来節

うみで見て、みても見て、のこの子



さかもと めい
坂本 芽生くん

1歳9か月（大戸）

パパ 潤さん
ママ 里美さん

じーたんと電車が
大〜好き！



たかやま りこ
高柳 凜子ちゃん

1歳9か月（大戸）

パパ 友嘉さん
ママ 恵理子さん

おしゃべり大好き！
モリモリ食べる元気娘♡



くぼ き あやか
久保木 彩花ちゃん

1歳9か月（津宮）

パパ 久徳さん
ママ 秋代さん

仲良い3姉妹の末っ子で
す。いたずら大好き♡



あかさか そうま
赤坂 颯馬くん

1歳9か月（大戸）

パパ 慎一さん
ママ 香織さん

歌と踊りが大好きな
甘えん坊くん♪



たかはし つむぎちゃん

1歳9か月（大倉）

パパ 勇樹さん
ママ 美智子さん

音楽に合わせてダンスする
のが大好きです！

おみっこくらぶ 竹ごはん作り

自分で作ればおいしさ倍増



▲難しい火加減の調整や立ち込める煙と闘いながら最後まで火の当番を務めました

◀竹の外側はすすで真っ黒になりましたが、中を開けると真っ白に輝くご飯が

県立水郷小見川少年自然の家のおみっこくらぶでは初めてのプログラムとなる、竹筒にお米を入れて作る「竹ごはん作り」が2月1日に野炊さん場で行われました。

参加した26人の子どもたちは4班に分かれ調理を開始。ご飯を炊く際に出る煙でみんな涙が止まらず悪戦苦闘しましたが、いっしょに作った豚汁とともに、無事完成させることができました。竹筒を開け、ご飯をよそっていると「おいそ〜！」と歓声が。冬真っ只中での調理でしたが、ほかほかのご飯とあつあつの豚汁で体の芯まで温まりました。